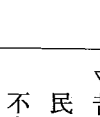
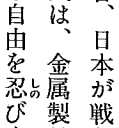
供

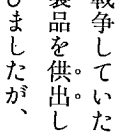
六年

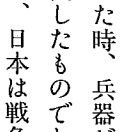
画数 8
筆順 亻 亻 亻 供 供
オン キョウ・ク
クン そな-える・とも

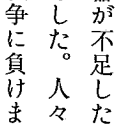
成り立ち

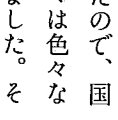












うやうやしく両手でささげもち、〝そなえる〟形を表した〝共〟と、〝亻〟とを組み合わせて作った字です。

〝そなえる〟意味の〝共〟が、〝とも〟という意味に使われるようになったため、〝共〟に〝亻〟を加えて、〝そなえる〟という意味の字にしたものです。例供物、供養。

〝さし出す〟という意味にも使います。例提供、供出、供述。

また、〝饗（もてなす）〟の代わりに使われています。例供応。「〝共〟にする〝人〟」〝おとも〟という意味にも使います。例お供、供侍。

〔漢音はキョウ、呉音は〇〕

使い方

▽今年はおじいちゃんの三回忌なので、おじいちゃんの好きだった栗やぶどうを供物にして、供養を営みました。

▽昔、日本が戦争していた時、兵器が不足したので、国民は、金属製品を供出したものでした。人々は色々な不自由を忍びましたが、日本は戦争に負けました。それ以来、日本国民は、二度と戦争をしないと誓いました。

熟語例

▽供物（神仏に供える物。おそなえ）

▽供養（死んだ人の霊に供物を上げて、死後の安らかな幸福を祈ること。）

▽提供（自分の持っているものを、さし出すこと。「お金が無いなら、ぼくのおこづかいを提供しよう」などというふうに、つかいます。）

▽供出（民間の物を、国にさし出すこと。）

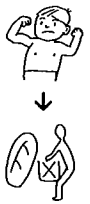
▽供述（裁判などで、質問に答えて、事実を述べること。「証人の供述によって、容疑者は有罪を宣告された」というふうに、つかいます。）

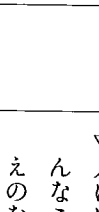
胸

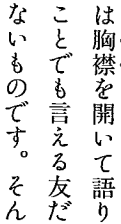
六年

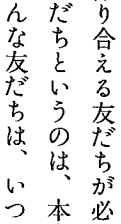
画数 10
筆順 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 胸
オン キョウ
クン むね・むな

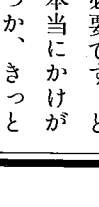
成り立ち











肉体の意味を表した〝月〟と、〝包む（年618）〟意味の〝勹〟と、凶という字とを組み合わせて作った字です。

体の中で、肺臓や心臓などの一番大きな内臓を包み、〝凶〟と呼ばれる〝むね〟のことを表した字です。例胸元、胸板、胸囲、胸像。

〝心〟という意味にも使われます。例胸裏、胸奥、胸襟、度胸、胸算用。

使い方

▽ぼくは胸板が厚くて、胸囲が七十センチもあります。運動が好きで、トレーニングをするからです。おかげで、体も丈夫で、かぜ一つひいたことがありません。

▽人には胸襟を開いて語り合える友だちが必要です。どんなことでも言える友だちというのは、本当にかけがえのないものです。そんな友だちは、いつか、きっとできます。できたら、大切にしなければいけません。

熟語例

▽胸元（胸のあたり。むなさき。「胸元に直球を投げ込まれて、三振した」などというふうに、つかいます。）

▽胸板（胸の平たい部分が板のようだから、言った言葉です。「胸板をたたいてひきうけた」などというふうに、つかいます。）

▽胸囲（胸のまわりの長さ）

▽胸像（胸から上の部分を彫像にしたもの）

▽胸裏（胸のうち。心の中。「胸裏に大望を抱く」などというふうに、つかいます。）

▽胸奥（心の奥。人の知らない胸のうち）

▽胸襟（胸の襟。心の中のことを言います。）